

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスについては全職員が理解しているが、理念には反映されていない。	○	これまでの理念を見直し全職員で話し合い地域生活の継続支援と地域の関係性を強化し当ホームらしい理念を作り上げていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに掲示し、理念の共有と実践していくにはどのように対応していくミーティング等で話し合っている。	○	申し送り時には確認しあうようにしていきたい。また毎月の職員会議で話し合い日々のケア実践に反映させていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム玄関に掲示し、ご家族、来園者に見やすいようにしている。また利用時には利用者やご家族に説明している。	○	パンフレットやホーム便りにわかりやすく明示し、ご家族や地域住民の方への浸透を図ってきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常的に隣近所の人たちと挨拶を交わしたり、回覧板、町内花壇の管理等気軽に立ち寄れるようつとめている。また地域、町内の行事や活動に参加し地域住民との交流を図っている。	○	町内会、老人クラブ等との交流を強化し、認知症に対する相談を受けたり、認知症の予防、普及活動に積極的に取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行う際はそのねらいを全職員で確認し、評価している。また、評価後は改善点について話し合い改善に努め、よいところは日々のケアの励みにしている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、自己評価の結果、日々のホームでの活動内容等報告し、委員、入居者家族の方々から意見を頂きサービスの向上に努めている。	○ 運営推進会議実施計画は作成されているが、計画通り開催されていないので、2月に一回は開催していきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類提出、報告、また質問がある場合はできるだけ担当者の元へ出向き直接口頭で交わすようにしている。	○ ホームの実態を把握してもらえよう自己評価・外部評価表を提出し協力を得られるよう努めていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し受講者が職員会議に説明し理解を深めている。	○ 必要に応じて全職員が利用者やご家族に事業内容や情報提供できるように努力していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加しホーム内研修で全職員が理解し、防止に努めている。また入浴、更衣時にはボディチェックを怠らないようにしている。	○ 虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等の取り決めをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人や家族に時間をかけて説明し理解と同意を得ている。また契約を改定した場合も本人や家族に十分に説明を行い同意を得ている。	○	退去者（解約者）はいないが退去の場合には本人や家族に不安を生じさせないように対応し相談していききたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満を上手に表すことのできない利用者に対しては本人の言動等から不満や意見を察する努力をしている。また出された意見や苦情は職員会議で話し合い改善に努めている。	○	外部者に意見を話せる機会を設けていききたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度は来園してもらえようように働きかけ、報告している。また何らかの問題や変化のあった場合はその都度連絡し報告している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来園時や電話連絡の際に何でも話せるような雰囲気作りをしたり積極的に問いかけている。また出された意見等は職員会議で話し合い対応している。	○	家族の協力を得ながら家族会の設置や家族同士が集まれる場を設け意見を出して頂けるよう努めていききたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ミーティング等で意見や提案を聞く機会を設けている。	○	定期的なカンファレンスや個人面談等運営者を交えて意見交換をしていききたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者のペースに合わせたローテーションを組んでいる。また必要があればその都度状況に応じて対応できるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職・採用時には利用者にわかるように説明し、心理的な混乱や動揺を最小限にするようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、報告書を提出、職員会議で他の職員にも報告し研修資料には全員が目を通してしている。	○	おおまかな内部研修計画を立て職員の意見、希望を聞きながら人材育成にあたっていきたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はリーダー研修での参加をきっかけにお互い交流があり、情報交換を行っている。	○	地域の他事業所との交流を図る場を設けて勉強会、情報交換等でサービスの質の向上に努めていきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事上のストレスや不安は職員会議等で取り上げ全職員の問題として捉え話し合いを行っている。また法人内の親睦会に参加している。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実施、職員の勤務状況や努力を把握し、年に2回、運営者と個別に面談している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受ける際は直接本人や家族と面談し、信頼関係を大切にしながら本人、家族の抱える不安や思いを受け止められるよう努力している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合はできる限り直接話し合う機会を設け必要があれば他のサービスの利用等の情報を提供するなどの対応に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	信頼関係を築くことを第一に考え親しみやすい雰囲気作りや会話、気配りを心がけ本人が納得してサービスを受けられるように努力している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす時間を多く持ち本人の思いに共感し理解し支援するよう心がけている。	○ お互いが協同しながら穏やかな生活ができるように場面作りや声掛けを増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等家族と話ができる機会を作り、利用者の様子を伝えたり、家族の思いを理解するように努め良い関係を築くよう努力している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族の状況を見極めながら行事や外泊、内泊等で一緒に過ごすことを勧めたりしながらより良い関係の継続に努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に出かける、地域の友人、知人が面会に来たりと継続して交流が保たれるように努力している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性、その日の気分や状態を把握し孤立しないように配慮し関わりをもてるよう心がけている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了事例は無いが継続的に相談、支援していけるよう努めていきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の希望、思いを引き出せるよう働きかけ、申し送り、会議等で職員全員が把握できるようにしている。また困難な場合には言葉や表情から推測しそれとなく確認するようにしている。	センター方式を活用したり、家族から情報を得るなど一人ひとりの希望の把握に努めていきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや面会時の情報収集に努め本人のこれまでの生活歴を理解しケアに活かしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのペース、食事量、健康チェック、排泄状況、睡眠状態、精神面等総合的に本人の現状を申し送り等で把握できるようにしている。また日々の生活の中から「できること」「できそうなこと」に注目するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式（アセスメント）を参考にし、職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	○ 本人、家族からの意見、要望を取り入れ、介護計画に反映させていきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の遂行状況、効果等を評価しつつ、変化・変更があった場合はその都度見直しを行っている。	○ 本人、家族を含めた話し合いを持ちながらの見直しを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し日々の暮らしの様子、身体状況を記録し全職員が情報を共有している。	○	記録にはまだまだ本人の些細な言動や様子、反応をそのまま描写することが少ないので、記録の方法等検討し、実践していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者にとって負担となる受診、入院の回避、早期退院の支援等に対応する体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して生活できるように地域の交番、消防署、民生委員、町会長等に働きかけを行っている。	○	利用者のプライバシーに配慮しながらボランティアの受け入れを行っていききたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	本人、家族の希望があれば介護保険以外のサービスも使えるように支援していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	運営推進会議等を通じて地域包括支援センターとの関係を強化し、情報交換等していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を取り入れ納得が得られたかかりつけ医になっている。また、かかりつけ医の訪問看護師と医療連携を結び適切な医療が受けられるように体制を整えている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に相談し必要があれば、専門医に紹介してもらい受診している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており常に利用者の健康管理や状態に応じた支援を行えるようにしている。看護職が不在の場合でも電話連絡をし指示を仰げるように体制を整えている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には頻繁にお見舞いに行き医療機関へ情報提供したり、今後の見通しについて家族と一緒に説明を受け、速やかな退院支援に結び付けている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの「看取りの方針」を家族やかかりつけ医、訪問看護師に説明し方針の統一を図っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「看取りの指針」を作成しチームとして支援していけるように準備している。	○	重度化した場合、終末期ケアについて職員の知識と理解をよりいっそう深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者間で情報交換を行い本人が安心できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライドを傷つけないような対応を心がけ個人情報の保護を大切にしよう努めている。	○	職員会議やミーティングで職員の意識向上を図っていききたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声がけをしたり、意思表示の困難な利用者は表情で読み取ったり複数の選択肢を提案し自分自身で決められるように支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、できる限り本人の体調、ペースに合わせた支援ができるよう心がけている。	○	一人ひとりの気持ちを尊重し柔軟に対応できるよう工夫していききたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは本人に選んでもらい支援が必要な利用者には手伝ったり、できるだけ本人の意思を尊重している。また、行事等にはおしゃれを楽しんでもらえるようにしたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルで食事をし、楽しい雰囲気作りをしている。	○	利用者の好みを取り入れた献立作りに力を入れていきたい。また現在は食事の片付けだけしか行っておらず、本人のできることを見極め買い物、調理、盛り付け等も職員と一緒に協力して取り組んでいきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつと飲み物は希望を聞いたり、本人の状況を見ながら対応している。	○	希望があればお正月、誕生会等にはお酒等楽しめるように支援していきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し尿意の無い利用者にも時間を見計らって誘導している。また、日中はできる限り下着と尿取りパットのみで対応するようにしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの好みの入り方に合わせて一対一でゆっくり会話しながら入浴を行っているが、曜日や時間帯はホームの都合になっている。	○	曜日、時間帯については、一人ひとりの希望とタイミングに合わせた入浴となるよう検討していきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好みの時間の就寝、一人ひとりの体調や表情を観察しゆっくり休息がとれるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が出来る、希望する仕事を頼みし、感謝のことばを伝えるようにしている。(洗濯物たたみ、タオル洗い等)また、天気の良い日は体調に合わせて散歩に誘い気分転換ができるよう支援している。		一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごとが増えるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自己管理し、買い物、受診の際には自分で支払いを行っている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分、体調に応じて散歩や買い物に出かけられるよう支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	雪の無い時期は希望を聞き月に一度は遠くへ出かけられるよう対応している。	○	外出の際は家族も一緒に出かけられるように働きかけていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いたり、希望に応じて日常的に電話をかけられるよう支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に、都合のいい時間に訪問できるように居心地よく過ごしてもらえるように職員は挨拶、言葉かけ、態度に気を配っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に参加したりホーム内で勉強会を行い職員の共有認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを徹底した、一人ひとりのその日の気分や状態を把握し日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出しそうな様子が見られたときは声がけ、一緒について行く等安全面に配慮している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながらさりげなく利用者の状況を把握するように努めている。夜間は毎時巡回をし起きられた際はすぐに対応できるように職員の居場所を工夫している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況をみながら保管、管理が必要なものは職員が管理し、必要に応じて見守りで使用している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員間で共有認識を図り、危険を予測して未然に防ぐように努めている。また事故発生時は速やかに報告書を作成し、原因、今後の予防策について検討し、家族へ説明と報告を行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故発生時に備えてマニュアルを作成している。また赤十字の救急法講習会を年に一回実施し救急法や蘇生法について学習している。	○	マニュアルの見直しが行われていないので全職員が理解しやすいように改善していきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、通報、消火訓練は年に二回行っているが地域の方々の協力を得られるような体制は整っていない。	○	地域の方に災害時には協力が得られるように働きかけていきたい。また災害に備えた備品等も早急に準備していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の行動障害のパターンや疾患により起こり得るリスクについて家族に説明し予防策、対応策について話し合っている。		
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を把握し少しでも変化の見られた場合はバイタルチェックを行い変化時の記録をつけ情報の共有を図っている。また状況に応じて管理者に報告し医療機関の受診につなげている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを個人ファイルに綴り職員が内容を把握できるようにしている。変更時は口頭、申し送りノートを活用している。服薬時には間違い防止のため名前、日付、時間を記入し本人に必ず手渡しし、きちんと服用したかを確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表で便秘の有無を確認し運動、水分補給、食事に気を配り自然排便を促している。便秘が続くときは医師から処方してもらった下剤を使用している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、毎食後の歯磨き、うがいの声かけを行い利用者に応じて職員が見守ったり、介助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個人ファイルに日々記録し職員が情報を共有している。水分摂取量は概ね把握しているが普段より少ない時や変化のあった場合は申し送り時に報告し対応にあたっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防・対応マニュアルを作成している。流行の時期には関係機関から発行される資料に目を通し予防・対策に努めている。また利用者、家族に同意を得て職員共に予防接種（インフルエンザ）を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎食後除菌を行い清潔を心がけている。冷蔵庫内も点検、掃除し食材の残りや鮮度を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように玄関先にプランターを置いたり、安心して出入りができるように手すりを設置している。	○	荷物を置いたり、靴の着脱がしやすいように玄関内にベンチを置くなどの工夫をこらしていきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明、室内の明るさに注意したり、物音は最小限になるよう配慮している。フロアの飾りつけで季節感を感じられるように工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳の小上がりスペースがあり昼寝をしたり利用者同士団欒を楽しんだりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好むものを安全面を考慮しな がら使い勝手のいいように配置されている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	共同スペース、各居室に温・湿度計を設置し温度 管理を行っている。トイレは換気扇と消臭剤を 使用し悪臭が出ないように気を配っている。		
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	本人の活動を維持するために車椅子、歩行器等を 個人の状態に合わせて取り入れている。また手す り、浴室、トイレ、廊下等居住環境が適してい るか見直し、安全確保と自立への配慮に努めてい る。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の間違いを防ぐため本人、家族に了解を得て 居室の入り口に名札と写真をかけている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	玄関先に花を植え水やりをしたり、観賞して楽し めるようにしている。	○	玄関先にベンチ等を置き涼んだり、日光浴を楽し んだり出来るよう工夫していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは健康で安心した生活ができるよう、職員一同心がけています。また、法人デイサービスとの交流や行事に参加したりすることが出来ます。